

一枚の写真



青年団の道普請 青年団にとって村から依頼される春秋2回の道普請は活動の貴重な収入源であった。青年団が関わる以前から、伝統的に住民に道普請の仕事があり、これに出ないと、出不足として何がしかのお金を取られていたという。馬車で運んだ砂利を道にひき、ならず程度の作業であるが、これを青年団が引き受けて、村から団活動の補助金を得ていた。

写真は青年団第5支部（本町地区）の活動風景で、戦闘帽にゲートルという軍隊調のスタイルから昭和14年ごろ。場所は南新道青梅線西側の瀬沼商会前で、現在の福生駅西口より牛浜方向へ100メートルほどのところ。南新道から青梅線を抜けていた踏切は、今は閉鎖されている。

（橋本孝蔵氏提供）